

| 本号の主な内容 | |
|---------|---|
| 2、3面 | 特集 第28回 都市公園コンクール |
| 3面 | 【学会の目・眼・芽】第42回 入江彰昭氏 環境共生時代の造園 ちょうどいい“び ったりの風景” |
| 4面 | 【緑滴】東日本大震災後における建設業界 の現状 土田一彦 |

樹林

2011年3月11日に起こった未曾有の東日本大震災から、早くも2年近くが経過しようとしている。多くの被災地の中でも東北の岩手、宮城、福島は地震に加え津波の被害が大きく、集落の移転問題を抱え、復興は遅々とした動きに見える。未だに仮設住宅での不便な生活を強いられる被災者のためにも早い復興が望まれる。

2013年、日本が抱える問題は震災復興だけでなく、少子高齢化による福祉の問題、デフレによる財政悪化の再生問題など多々ある。昨年未に行われた衆議院選挙では、これら問題対応に改善の期待を込め、政権の交代がなされ、安倍政権が誕生した。新政権では、震災復興の促進だけでなく、橋や道路、下水道整備といった社会インフラの再整備に多額の公共事業投資が成される。我が、造園界も震災復興計画にも見られるように、公園・緑地という大事な社



乾杯のあいさつを行う藤巻司郎会長（1月7日、品川プリンスホテル）

造園の出番は必ず来る

新年造園人の集い500人参加

2013年新年造園人の集いは1月7日、東京都港区高輪の品川プリンスホテルで開催、学界、官界、産業界をはじめ、約500人が集まった。

集いは、冒頭、世話人を代表して、丸田頼一（二社）日本公園緑地協会会長があいさつ。少子高齢化対策が今後の課題の一つとし、学校の統廃合にあたっては跡地を公園や教育の森のような空間にすると、日常のレクリエーション利用をはじめ、防災にも役立ち、子どもたちの環境教育の場にもなる。また、空き家も目立ってきているが、こうした空間をコミュニティガーデンや街かど公園などにしていくことが望まれ、子ども達からお年寄りまで、みんなが憩える街づくりが不可欠と述べた。

次いで、学界から、増田昇（公社）日本造園学会会長が、自然の脅威をいなし

30万haの保全緑地を加えると、国土の約1%に当たる。こうしたストックの価値を高め、最大限に活用するため、日本庭園から里地、里山にいたる多様な公園緑地の管理に必要なノウハウ、技術を整理し、予算、制度の中で確立、安定させる必要がある、いかにして私たちの技術、知識を広く理解して貰うかを考えなければならぬと述べた。

星野一昭環境省大臣官房審議官は「補正予算では、老朽化した公園施設の再生、施設の充実に取り組み復興に際しては、グリーンプランを環境省でつくり、三陸復興国立公園や、八戸から相馬市まで延長700

kmに及ぶ長距離自然歩道の東北トレイルの整備が計画されていると述べた。

その後、産業界を代表して、藤巻司郎会長が「世の中も少しずつ、明るくなってきたように思う。お集まりの皆様のご健勝と素

晴らしい造園界になることを祈って」と、乾杯を発声、歓談となった。

閉会では、枝吉茂種（二社）ランドスケープコンサルタンツ協会会長が3本締めのを行い、散会となった。

植栽基盤診断士認定試験 合格者107名が難関を突破

植物が良好に育つ土壌環境を整える専門家「植栽基盤診断士」の資格制度は、日造協が創設して今年で10年目となる。

今年度の認定試験は、「学科試験」を9月16日に全国9会場で、学科試験の合格者が次に挑む「実技試験」を11月16日～18日に国営昭和記念公園（東京都立川市）で、また12月4日～6日に服部緑地（大阪府豊中市）で実施した。

認定試験の合格は、「植栽基盤診断士認定委員会（委員長：近藤三雄 東京農業大学教授）」で厳正に審査し、結果は次の通りとなった。

会インフラ整備の一翼を担っている。東日本大震災の復興計画に関わるだけでなく、日本全体の公園・緑地という社会インフラ再整備を進めていく必要がある、今年には造園界の頑張りどころと思う。

（二社）ランドスケープコンサルタンツ協会（CLSA）では、1968年に「日本造園設計事務所連合」として設立以来、庭園や公園の設計、公園

造園設計としての資格「RLA」

日造協理事・（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会会長 枝吉茂種



緑地のプランナー、地域景観や環境デザイナー、ランドスケープアーキテクトとして活動してきた。しかし、ランドスケープアーキテクトとしての認定資格は無く、技術士やRCCM、造園施工管理技士がランドスケープアーキテクトの資格となっていた。技術士はデザイン能力というより、計画技術、計画遂行能力を認定したものであり、それを補完するRCCM

RLAの有資格者の内訳はCLSA会員の技術者が約半分、その他は建築・土木系コンサルタンツ、ゼネコン、自治体、教育関係など、民間や海外でも幅広く活躍しているランドスケープアーキテクトの方々が含まれている。

2013年、RLA有資格者が一人丸となって、ランドスケープ界をリードすべく「ランドスケープアーキテクト連盟」を立ち上げることになり、去る1月5日に設立総会を開催した。総会は全国より有資格者が多数参加し、初代会長には葉茂壽太郎氏（一財）公園財団理事長）が就任された。

「ランドスケープアーキテクト連盟」では、RLA有資格者だけでなく、資格制度を支援していただける方々が誰でも参加できるシステムと

RLAの有資格者が一人丸となって、ランドスケープ界をリードすべく「ランドスケープアーキテクト連盟」を立ち上げることになり、去る1月5日に設立総会を開催した。総会は全国より有資格者が多数参加し、初代会長には葉茂壽太郎氏（一財）公園財団理事長）が就任された。

「ランドスケープアーキテクト連盟」では、RLA有資格者だけでなく、資格制度を支援していただける方々が誰でも参加できるシステムと



実技試験（土壌断面調査）



面接試験



実技試験（化学性）



実技試験（透水性）

実技試験の結果

| 試験人数 | 学科試験 | | 実技試験 | |
|------|-------|------|-------|------|
| | 受験者 | 合格者 | 受験者 | 合格者 |
| | 170名 | 123名 | 118名 | 107名 |
| 合格率 | 72.4% | | 90.7% | |

実技試験の合格者は、登録認定手続をすることにより「植栽基盤診断士」と称することができ、植栽予定地の現況調査と診断に基づき発注者等へ明確なデータを示しながら、改良の計画立案と具体的な処方方施工性・経済性を考慮して技術提案する。

資格を創設した平成15年からの合格者の累計は、054名となり、様々な地域での発注要件にも取り入れられるなど活用が拡がりつつあり、今後も活躍が期待される。（合格者3面）

特集 第28回 都市公園コンクール 大臣賞2作品をはじめ 日造協から5作品入賞

第28回都市公園コンクールの表彰式が平成24年10月26日、「ひろげよう育てようみやこ」大会で都庁で行われ、日造協から5作品が入賞作品を紹介しました。

国土交通大臣賞 造園施工部門（大規模） 横浜公園再整備工事

横浜市、横浜庭苑緑、藤・田澤J、藤造園建設、堀江造園緑

横浜公園の歴史 移り変わり

横浜公園は明治9年「彼我公園」として開園し、日本の灯台建設のためにイギリスから招聘された技師プラントンによる原設計を元に神奈川県が実施設計を担当し運営されました。以後時代の変化に合わせて現在までに5回の再整備が行われました。今回の再整備はその5回目の整備となりま

遊具周辺はゴム製保護マットのデザインを「灯台の光」や「カモメ」に見立て設置しました。また芝生広場は一部に耐基盤材を使用し、全体的にはゴム製の保護マットを敷設しました。

外周壁はスクラッチタイルと大谷石が組み合わされた歴史あるもので、今回は一部の改修を行いました。施工にあたってはタイルの色合わせにおいて何度も試し焼きを行い既存タイルに

近いものを選択しました。歴史ある壁の雰囲気損なうことなく仕上げることができました。

ねた自然石の石組の施工を行い、既存石材の再利用と新たな材料との調和により日本庭園の風情を随所に出しました。

整備に携われたことは我々にとっても大変貴重な体験となりました。改めて発注者を初めとする関係者の皆様には深く感謝を申し上げます。

い、閑静な住宅街に位置する現場は、周辺道路も幅員6mで、3面は一方通行と搬入条件の易しくない場所です。また、作業日も住民の強い要望で、土・日・祝日の作業を控えなければならぬという条件もありました。

事への関心も高まってきた。当初から開園時期（1ヶ月・3ヶ月）の工程を厳守することや、近隣へのわかりやすい広報などの工夫により、地域の皆様の理解と協力が得られ、工期を通して大きく進捗を乱すことなく予定通り竣工することができました。

こうした工事との日々の調整はもちろん、短期・中期（1ヶ月・3ヶ月）の工程を厳守することや、近隣へのわかりやすい広報などの工夫により、地域の皆様の理解と協力が得られ、工期を通して大きく進捗を乱すことなく予定通り竣工することができました。

御影石舗装はサビ系とグレイ系の2色を使用し、目的地の割付（目地幅、張り出しの位置等）を図面作成し何度も検討を重ね、石材寸法も現場に納まるように工夫しました。また、アルゼンチン斑岩舗装においても張りパターンを統一させる工夫として試験施工したパレットの作成を行いました。

横浜水道100周年を記念した地下に緊急時の災害対策用循環式防水タンクが設置されており、イベント時にはステージとして利用されます。今回整備では老朽化したセンサーや東日本

水場の

再整備を行った横浜公園のようす

練馬区立中村かしわ公園他整備工事

利用者への期待に応える

着工まで

周辺環境

完成後

「森の都くまもと」を象徴するにふさわしい景観を象徴する白川河岸ですが、洪水対策で、樹木移植が行われ、最後の2本となったのがこの大クスです。

大クスについて
2本の大クスは樹齢100年を超え、存在感は他の樹木をしのぎ、シンボルツリーでもあり、枝や幹

国土交通大臣賞 材料・工法・施設部門（材料・工法）
白川河川改修に導入の 大クス立曳き工法

検討委員会の設置
移植に当たっては、大学の先生方・学識経験者、工事発注者・施工業者、立曳き経験者（株富士植木）で構成。産・官・学の有識者で三位一体となった検討委員会が移植工法、施工体制の検討を行いました。

市民参加型のイベント
委員会では各検討等を進める中で、CSR活動として、九州では、初めての立曳き工法を通じて、伝統技術の素晴らしを促すよう、「立曳き工法の実演イベント」を開催しました。イベントには、委員会や造園関係者約80名、一般の参加者（見学者を含む）300名余、近隣小学校の児童（5年生）60名を招待、報道関係も新聞・テレビ局等20社余が参加しました。

マスコミにも大きく報道され、関心の高さを感ずるとともに、自分達の力で、大クスを動かした小学校児童からは「楽しかった」や「もつとやりたい」などの声がかかれ、児童手作りの感謝状を頂きました。

知恵と技の奥深さに敬意と感謝の気持ちが湧いてまいりました。

今後の取り組みとして、移植が終了ではなく、定期的な樹勢調査等、発根状況調査を持続的に行い、樹木の活着、技術の定着を根ざして参りたい所存です。

最後に、発注者、設計者、工事に多大な協力を賜りました近隣の皆様、その他関係者の皆様、このような賞を受賞させて頂きましたことを厚く御礼申し上げます。

「森の都くまもと」を象徴するにふさわしい景観を象徴する白川河岸ですが、洪水対策で、樹木移植が行われ、最後の2本となったのがこの大クスです。

大クスについて
2本の大クスは樹齢100年を超え、存在感は他の樹木をしのぎ、シンボルツリーでもあり、枝や幹

検討委員会の設置
移植に当たっては、大学の先生方・学識経験者、工事発注者・施工業者、立曳き経験者（株富士植木）で構成。産・官・学の有識者で三位一体となった検討委員会が移植工法、施工体制の検討を行いました。

市民参加型のイベント
委員会では各検討等を進める中で、CSR活動として、九州では、初めての立曳き工法を通じて、伝統技術の素晴らしを促すよう、「立曳き工法の実演イベント」を開催しました。イベントには、委員会や造園関係者約80名、一般の参加者（見学者を含む）300名余、近隣小学校の児童（5年生）60名を招待、報道関係も新聞・テレビ局等20社余が参加しました。

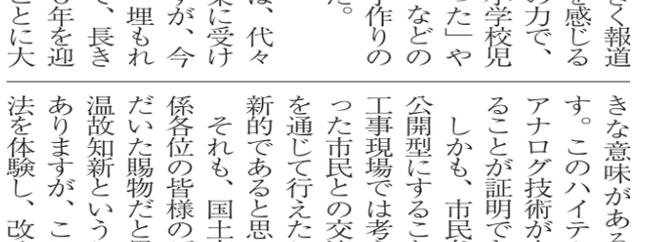
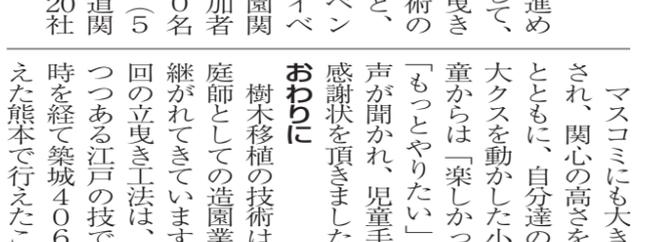
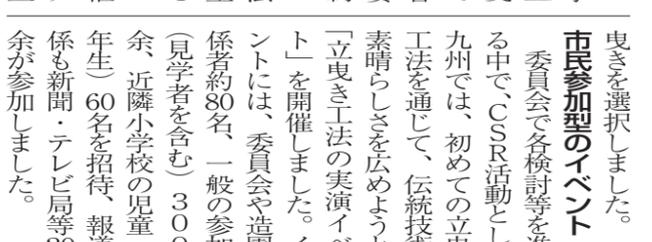
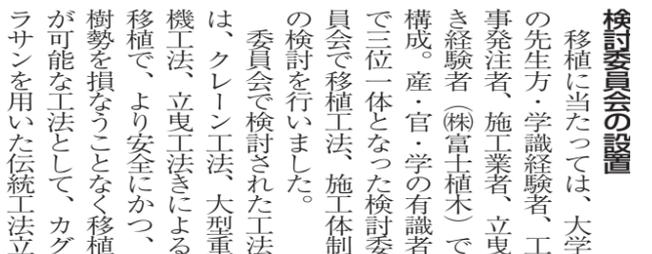
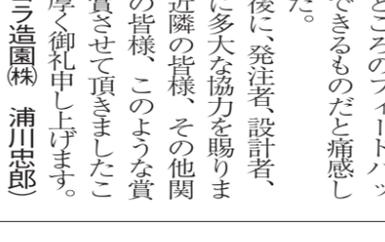
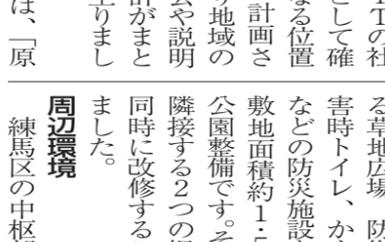
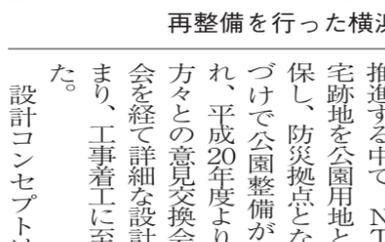
マスコミにも大きく報道され、関心の高さを感ずるとともに、自分達の力で、大クスを動かした小学校児童からは「楽しかった」や「もつとやりたい」などの声がかかれ、児童手作りの感謝状を頂きました。

知恵と技の奥深さに敬意と感謝の気持ちが湧いてまいりました。

今後の取り組みとして、移植が終了ではなく、定期的な樹勢調査等、発根状況調査を持続的に行い、樹木の活着、技術の定着を根ざして参りたい所存です。

最後に、発注者、設計者、工事に多大な協力を賜りました近隣の皆様、その他関係者の皆様、このような賞を受賞させて頂きましたことを厚く御礼申し上げます。

こうした工事との日々の調整はもちろん、短期・中期（1ヶ月・3ヶ月）の工程を厳守することや、近隣へのわかりやすい広報などの工夫により、地域の皆様の理解と協力が得られ、工期を通して大きく進捗を乱すことなく予定通り竣工することができました。



全景① 児童とカグラサン② 児童が曳いたクスノキをバックに③

全景④ 原っぱ広場⑤

山隈昌彦、池端潔

国土交通省都市局長賞 管理運営部門 横須賀市5公園

「ヴェルニー公園」「三笠公園」「荒崎公園」の管理運営を評価した。横須賀市5公園は、市民の憩いやレクリエーションの場として、さらには観光資源としての役割も果たしている。管理運営が、市民の憩いやレクリエーションの場として、さらには観光資源としての役割も果たしている。

平成18年より横須賀市において、バラを楽しむことのできる「ヴェルニー公園」、記念艦三笠が隣接する「三笠公園」、海辺の自然溢れる「荒崎公園」、春秋に100万本のポピー・コスモスが咲き誇る「くりはま花の国」、ペリー提督の上陸を記念した「ペリー公園」(以下、「横須賀市5公園」という)の管理運営

を行っている。横須賀市5公園は、市民の憩いやレクリエーションの場として、さらには観光資源としての役割も果たしている。管理運営が、市民の憩いやレクリエーションの場として、さらには観光資源としての役割も果たしている。

「ヴェルニー公園」のポピー100万本のポピー



植栽基盤診断士 合格者一覧 (記事)

平成24年度植栽基盤診断士の合格者は次の通り。
北海道 桐川雄一(財)公園緑地管理財団(宮城県)古川弘、青葉緑化工業(群馬県)三澤淳一、小川雄一、吉田尚登、山梅造園土木(株)、石塚征人、赤城南麓森林組合(埼玉県)宮原一、石垣秀、西武造園(株)、伊藤伸之、新都市緑化建設(株)、田島慶一、(株)田島造園、川嶋

解説板を設置するなど、より多くの人に様々な形で花壇の魅力を伝えていきます。協働・企画力を活かしたワンランクアップ

ヴェルニー公園でのローズフェスタ、くりはま花の国のポピーまつり・コスモスマつりなど、花修景を活かした大型イベントを開催しています。期間中には、音楽会、無料花摘み大会など誰もが参加できるプログラムを実施しました。

地元商店街と連携したウィンドーイルミネーション、地元観光協会と連携によるペリー祭、市民講師によるフラワーアレンジメント

近年、ドラマなどによって横須賀が注目され、これまで以上に公園が貴重な観光資源となっています。今後もより一層観光客を誘致するとともに、横須賀市5公園が連携し、イベントやサービスの提供を行うことで、公園の魅力づくりを進めていきます。

一般社団法人日本公園緑地協会賞 造園施工部門(大規模) 柏崎市駅前公園整備工事

柏崎市駅前公園整備工事

本工事は、柏崎駅前土地区画整理事業の一環として、中越沖地震からの復興、再生の核となる新たな防災拠点の一角として位置づけられ、柏崎駅前地区の再整備・再配置を図るものであり、高齢者をはじめあらゆる世代が暮らしやすく、賑わい、活力のあるまちを目指す、再整備されました。

現場の課題 当地域は、多雪地域で工期のうち約4ヶ月は1m以上の積雪状態にあり、工事

また、植物の根腐れによる生育不良も見られ、快適な空間を提供するために、は、良好な植栽基盤形成へ

新田祥之(株)飛鳥木戸潤一、(株)深光園、(株)木秀和、アゴラ造園(株)、町田正之、(株)柳島寿々喜園、富永健吾、大島造園土木(株)、若松美津子、ウー設計、小川徹也、植小(株)、稲田陽介、東光園緑化(株)、猪野智隆、(株)松樹園(神奈川県)、工藤圭司、(株)湘南グリーンサービス、小田川真一、湘南造園(株)、神山洋、(株)金盛園、本多研一、水口昭彦、川崎工苑建設(株)、(株)野野原洋一、綿半インテック(株)、(株)丸山孝友、近藤一郎、(株)新湯造園土木(株)、(株)新開亭、天龍造園建設(株)、(愛知県) 木佐貫真一、(株)中嶋造園土木、村山真行、岩間造園(株)、飯沼伸介、猪俣景悟、大島造園土木(株)、(株)裕孝徳、平田昇美、東海緑化(株)、津坂洋輔、名鉄環境造園(株)、小原正志、(株)アステック、岩附浩一、岩附造園(株)、渡邊尚志、(株)南環境造園(株)、松浦和孝、(株)岡本環境造園(株)、(株)川崎洋行、(株)南園、(株)園吉弘、(株)諸島緑化産業、(株)渡邊英之、西武造園(株)、(株)井田文恵、中山浩成、(株)グリーンシエラ、坪川栄一、(株)愛福園、(株)泥川豊二、(株)高橋寛、(株)セントラルサービス、(株)波津正行、みどり建設(株)、(香



現場での取り組み 私たちは、これら課題への対策として、①工期短縮、②工事遅延防止、③迅速な協議、④品質確保の4点を掲げ工事を遂行しました。

①工期短縮：「複数工種の同時進行」や「手戻り防止」、「省力化」を行うため、プレキャスト製品の活用や均しコン打設、整地作業の工夫を行う事で、降雪前に付帯作業を除く全工種を完了させる事が出来ました。

②工事遅延防止：近隣住民と円滑なコミュニケーションを図るため、「駅までの歩道除雪による導線確保」、「挨拶運動」や「美化活動」により、トラブルなく工

完了を迎える事が出来ました。特に除雪時に多くの方から声を掛けて頂き、とてもうれしい思いをしました。

③迅速な協議：現場状況や進捗状況等をビジュアル的に発信するための「現場の専用ブログ」を開設し、発注者と情報共有する事で、スピーディーな連絡調整に努めました。

④品質確保：利用者がいつでも気持ちよく公園を利用できるように、「速やかな排水を促す」暗渠工への工夫や「停滞水を無くす」整地作業への工夫を行い、排水性を確保しました。また、「より自然に近いアンジュレーションと園路曲線の調和」を図り、景観性の向上に努めました。

さらに、既存樹木の根系保護のための「軽量盛土」や植栽物の健全な育成のための「事前灌水」「初殻充填式縦暗渠」「細部まで水が行き渡る水極め」等の工夫を行い、良好な緑陰づくりを努めました。

オープン後の状況 現在は、中心市街地の憩いの場として、子供からお

さらに、既存樹木の根系保護のための「軽量盛土」や植栽物の健全な育成のための「事前灌水」「初殻充填式縦暗渠」「細部まで水が行き渡る水極め」等の工夫を行い、良好な緑陰づくりを努めました。

学会の日・眼・芽 第42回

本原稿の執筆の依頼を受けた昨年末、政治は日本を取り戻すの標語を掲げた自民党の政権にあらたまりました。年頭より復興や経済の再生に向けた活動が始まっていますが、かつての経済偏重の成長の時代に戻ることではないと考えられます。作家五木寛之氏の『下山の思想』の中で、「私たちはすでに山頂をさきわめて下山にさしかかっている。下山の過程では美しい景色も眺められる。どこを目指して下山するのか」と説いています。

振り返ってみると、昨年は第一回地球サミット(1992年)から20年目の節目にあたり、地球規模で緑や環境について考える年でした。20年前は地球の環境問題を認識し(Do)、計画目標を掲げた(Plan)時代でしたが、今はThink Globally Act Locallyといわれるように地域で行動する(Do)時代に移行しています。故郷の風景の復興、環境が経済を生み出すグリーン経済等、環境との共生を意識した行動の時代の今こそ、私たちは造園力を行動で示す時ではないかと思えます。

美しい日本庭園を生み出してきた造園の原書『作庭記』には「生得の山水おもはへて……」(自然本来の風景の姿を思い出して……)、『築山庭造伝則編』には、「本所離別といふ事(環境に不適合、不調和なことはするな)と記されています。つまり、自然に倣いなさい、その場所にちょうど適する、びつりの風景を、と解釈できます。日本の美しく自然豊かな里山景観は、農林業を中心とした人々の暮らしにより守られてきました。柔らかな曲線の水路を維持し、田んぼの中耕除草、定期的な畦の草刈りを行うことによって、ホテルやカ

環境共生時代の造園 ちょうどいい“ぴったりの風景”

エル、ホトケドジョウなどの貴重な生き物やキョウウカワラナデシコなど秋の七草に代表される素朴な山野草がみられます。環境共生の農の営みがあるならば、これらはわが国の気候風土の下では当たり前前の田園風景です。私は学生達とともに農山村で里山景観保全活動を続けて12年になりますが、こうした活動を続けてきた中で気づかされたことが、1、2ha程度の小規模複合農業の営みこそが里山景観とその環境を保全してきたということです。その農業は、田畑、山林、畜産の農林業を営んでいますが、私が以前調査した分析によると、20頭以下の畜産農家では山林から集めた落ち葉を牛舎の敷材に使用し糞尿と混ぜて堆肥となつた後、田畑に還元されているのに対し、20頭以上の規模では敷材におがくずが使用され、落ち葉の収集という自然循環が断ち切られていました。同様に牛のエサに稲わらを使用する割合も20頭以上に大規模化すると輸入飼料を使用する割合が高くなつていました。つまり美しい里山景観の維持には、その地域にちょうどいい、適正規模の農の営みがあるといえます。

昨年5月に(公社)日本造園学会では東日本大震災復興支援調査委員会が中心となって『復興の風景像』を出版しました。私も復興に向けて少しでもお手伝いできればと思い調査活動いたしました。復興の風景像を「考えるならば、どこでも同じ一律の復興風景ではなく、その場所にちょうど適する、『ぴったりの風景』でありたいと思えました。私は環境共生が志向される今こそ、共生の知恵と技をもつ造園力を活かしながらあゆむ場面で美しくちょうどいい、ぴったりの風景、じっくり行動していく時であると思えるのです。

入江彰昭(公社)日本造園学会幹事、東京農業大学短期大学部准教授

悪天候の中 82名が実技試験

街路樹剪定実技試験実施 東京都支部

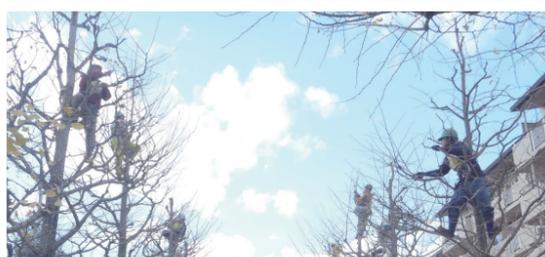
東京都支部は平成24年12月3～5日まで、平成24年度街路樹剪定実技試験・試験を開催した。

当日は、国土交通省の国道路事務所、公園事務所関係者ら20名が視察する中での試験を開催した。

実施となり、今後の資格活用が期待される。初日は、渋谷区の国立オ

協会だより

総支部、支部、事務局からの記事をご紹介します



リンピック青少年総合センターで、学科研修会・試験を実施。69名が参加した。開講式の後、吉村長泰技術委員長が趣旨説明を行い、街路樹に関する基礎から、剪定、病害虫、植栽基盤整備、安全管理、ケースタディの各科目を履修後、学科試験を行った。

4・5日は、多摩市の多摩ニュータウン鶴牧落合地区歩行者専用道路で実技試験を実施。実技試験は、両日併せて82名が受験した。4日の実技研修会はいくの雨の中行われ、その後、前半の実技試験を行った。

（東京都支部・事務局）

東日本大震災後における建設業界の現状

東日本大震災から既に2年近く経過しようとしている。「早期復興」という声はとて大きく、日本全土までに響き及んでいる事は言うまでもない。しかし、現状はどうだろうか。被災地の中長期的な防災のための復興計画は後にも、被災者の生活に直結する復旧復興には程遠いのが現状ではないだろうか。

今現在急ピッチに進められている復興事業の建設現場では、様々な問題を孕んでいる。建設現場で専門工事業の職人等の人手不足や建設資機材の不足。加えて原材料の調達困難及び価格の高騰などが顕在化している。また、それに伴い公共団体等の発注工事で受注業者がいらないなどの異常事態にまで及んでいる。



この問題は、被災地のみならず隣県各地まで広がっているのが現状であり、「年度内の工事が完成しない」「年度内予算が予定通りの執行できない」など各自治体の建設担当者には頭を抱えている。弊社の所在は同じ東北であっても被災地ではないので復興事業には直接的な関連はない心強いものがあるが、手放しに喜べないのも現状ではないだろうか。

いにしても同じような問題が孕んでいる。専門業種の職人不足と材料調達が困難なことや原材料価格の高騰である。以下のような例があった。某住宅建築現場の小規模外構工事にて型枠大工と左官職人の手配が付かず、150km離れた遠隔地にまで手配を試みたが、やはり手配が付かず

土田一彦(株)土田造園

委員会等の活動

■第39回全国造園デザインコンクール(審査会) 全応募作品について、藤井英二委員長をはじめ、10名の審査委員で審査を行い、入選、佳作、奨励賞を選考、特別賞を選出した。

次号詳細(1月26日) ■事業委員会要望・提言活動部会

平成25年度要望提言活動方針について、国営公園・環境省の発注状況への対応や総支部長・支部長への要望・提言活動のお願い、及び、要望活動の年間スケジュールについて、審議検討した。

■総務委員会(新法人移行検討PT) 支部規程、総支部規程等の改正について審議した。

事務局の動き

1月30日 ■総務委員会(財政・運営部会) 平成25年度予算フレーム等について概要を説明した。

1月30日 ■街路樹剪定実技試験委員会 街路樹剪定実技試験の実施結果(中間)の報告をはじめ、学科研修の採点基準の設定、来年度の実施について、学科研修・認定試験の全国一斉開催や実技の見直しに向けた審議を行った。

2月 1(金) アジア太平洋蘭会議・蘭展及び沖縄国際洋蘭博覧会審査 4(月) 東京都支部経営研修会 7(月) 運営会議 9(土) 第39回全国造園デザインコンクール(審査会)

7(月) 新年造園人のつどい 10(木) 新春造園界の集い(大阪) 15(火) 合同新年交流会(北海道) 17(木) 技術委員会(技術・技能部会) 18(金) 埼玉県まじりの団体合同賀詞交歓会 19(土) 第39回全国造園デザインコンクール予備審査 22(火) 第2回街路樹剪定実技試験委員会(試験部会) 24(木) 中国総支部・支部交流会 25(金) 中国総支部、中国地方整備局への挨拶 26(土) 第39回全国造園デザインコンクール審査会 28(月) 第2回街路樹剪定実技試験委員会

建設業界の皆様へ

建退共への加入のすすめ

福祉の増進と企業の振興のための国の退職金制度です

- 17万建設事業所が加入、292万人の建設現場の就業者が退職金支給対象となっています。
- これまでに累計で211万件、1兆4,659億円の退職金をお支払いしています。(平成24年10月末現在)

建設工場の第一線で働く優秀な人材確保にも寄与！

| 特長 |
|------------------------------|
| ◎法律に基づき運営される国が作った制度 |
| ◎建退共加入は「経営事項審査」で加点評価 |
| ◎国からの財政上の支援(国の助成により掛金の一部が免除) |
| ◎掛金は全額非課税(損金または必要経費に算入できます) |
| ◎複数の企業間を就業しても通算して退職金を支給 |
| ◎加入の手続きは簡単(各都道府県の建退共支部で加入) |

- 加入できる事業主 建設業を営む事業主
- 対象となる労働者 建設業の現場で働く方
- 掛金は一日310円(加入労働者ひとり)

独立行政法人 勤労者退職金共済機構 〒170-8055東京都豊島区東池袋1丁目24番1号
建設業退職金共済事業本部 TEL 03-6731-2866 FAX 03-6731-2895

ネットプラ10 クラウド

【基本デザインの型】や【製品】をクリック選択するだけで、平面、立面が立ち上がり、3Dパースや動くVRパースが完成します。インターネットの環境さえあれば、タブレットやスマートフォンなど、お手持ちの携帯端末までご利用いただけます。

07 オーセブン株式会社

E-mail/07inet@o-seven.co.jp

本社・〒338-0004 埼玉県さいたま市中央区本町西6丁目4-14
Tel:048-840-1577 Fax:048-840-1579
関西・〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-45 新大阪八千代ビル3F
Tel:06-4807-7737 Fax:06-4807-7727
住宅・リフォーム・エクステリア・外構・造園 ポータルサイト「イトコ」

新「住環境プレゼンカタログ」完成。ご請求下さい。

※Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。※iPadはApple Inc.の商標です。